

牛群検定の利活用などについて、解説記事を掲載しています。

- 1 大地 4月20日号 よつ葉乳業株式会社
牛群検定から見る現場に役立つ繁殖情報その1ー分娩間隔ー
牛群検定データを繁殖改善に利用しましょう [よつ葉乳業 検索](#) 酪農経営お役立ち情報
- 2 全酪新報 7月1日号 全国酪農協会
牛群検定ワンポイントレッスンその49 推定体重で飼料効率を判断
自分の牛群は、乾物1kgで何キロ乳量を搾れるか?ご存じですか?
- 3 LIAJニュース5月号 (一社)家畜改良事業団
新しい牛群検定成績表について(その48)
牛群検定から読み取るカルシウム不足 [検定成績表見方 検索](#)
カルシウム不足は、乳量、体細胞数、分娩、授精といろいろなところに悪影響を与えます。

今年の夏の研修会は、
京都大学 久米新一 教授 の特別講演です。
ふるって参加してください。

本会で毎年実施している「子牛生産・供給情報の活用研修会」は、京都大学久米新一教授の特別講演を行います。参加費無料ですので、どうぞお誘い合わせのうえ、お気軽に参加ください。

日程と場所

【東北会場】	9月15日金	仙台市	東北農政局
【関東会場】	9月14日木	東京都	全国家電会館
【東海会場】	9月22日金	名古屋市	桜華会館
【中四国会場】	9月21日木	岡山市	国際センター
【九州会場】	9月20日火	熊本市	国際交流会館

講演内容 特別講演「子牛の生産と育成管理について(仮題)」



詳細な実施要領と申込用紙は本会HPをご覧ください。

[乳用牛群検定全国協議会](#)

[検索](#)

<http://liaj.or.jp/kyogikai/>

検定試行(お試し検定)をどうぞご利用下さい!

家畜改良事業団では「乳用牛改良対策事業」により、牛群検定を半年間無料体験できるお試し検定を本年度も実施します。是非これを機会に、お知り合いの検定未加入の酪農家に一声かけてみてください。詳細は、当団HPをご覧ください。

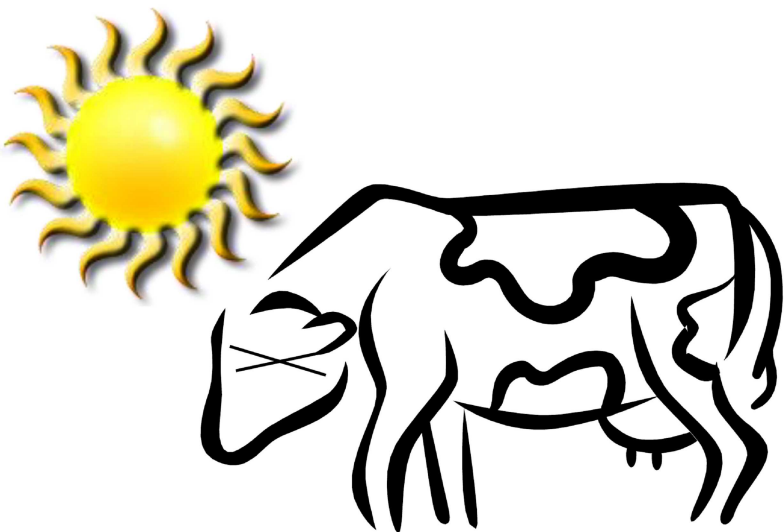
新規加入農家には、牛群検定成績の利活用(入門編)を解説したビデオをDVDとテキストで無料配布しています。「利活用がよくわからない...」という方にも安心です。また、有料になりますが、牛群検定活用の解説書も以下の通り2冊発行されています。アマゾンで購入いただけます。

「今日も明日も牛群検定が約束するあなたの酪農経営!」デーリィジャパン社 2880円(税込み)

「牛群検定クイックチェック〜早わかり〜」全国酪農協会 2400円(税込み)

暑熱対策に気象情報を利用しよう 牛群検定気象情報－カウダス－を公開しました！！

酪農における暑熱の影響は、日中の気温が24度以上になると乳量が減少し、夜間の気温が22度以上となると更に著しく乳量を下げる、と言われています。そのため暑熱対策として、送風扇等により体感気温をさげる必要があります。一方、子牛管理においては、気温が13度以下となると死亡事故が起こり得るので、ジャケットなどの防寒対策が必要とされています。このように酪農においては、気温の管理は生産性に直結しています。



しかし、これまでの気象情報は人間中心の気象情報であり、乳牛が飼われていない都市部などを中心にしたもので、そのまま酪農に応用することは出来ませんでした。このため、乳用牛群検定全国協議会（事務局（一社）家畜改良事業団）では、先進技術立脚型酪農経営支援事業（日本中央競馬会からの助成）により、各都道府県内でも乳牛が多く飼養されている酪農地帯を中心とした気象情報（カウダス）を開発し、7月10日に公開しました。自分の地域の気候の特性を知り、暑熱対策や寒冷対策に利用して頂きたいと思います。

カウダスは気象庁から公表される全国約840カ所のアメダス（地域気象観測システム）情報を利用し、牛群検定データと関連付けた新しい情報です。カウダス（CowDAS）とは、乳牛を示す「カウ」と「アメダス」を合わせた造語となります。

- 閲覧：誰でも自由に閲覧可能（無料）
- 公開地域：各都道府県、ただし北海道については14地域
- 内容：平成28年12カ月の月別乳量の推移および気象変化（雨温図）
- URアドレス：

乳用牛群検定全国協議会 <http://liaj.or.jp/kyogikai/>
（一社）家畜改良事業団 <http://liaj.lin.gr.jp/>

牛群検定全国協議会	検索
乳牛最新情報	検索

我が国が世界に誇る最先端テクノロジーである気象観測システム「アメダス」を牛群検定に取り入れたことは、極めて画期的なことです。西日本や沖縄でとりわけ課題となる暑熱による乳量減少、北日本で課題となる寒冷による子牛の損耗、局所的な大雨による自給飼料の被害など気象が原因となる酪農の被害は枚挙に暇がありません。

今後、戸別の検定農家でのリアルタイムなカウダスも展開する予定なので、牛群検定に加入のうえ利用して頂きたいと思います。

<活用事例>

図のA県においては、5～9月は日常的に24度以上となり送風扇等の暑熱対策が必要、とりわけ7～9月は夜間に22度を超えるため夜間の送風扇運転も必要となります。また4月と10月も特異的に24度を超えることがあるので、送風扇の稼働が必要となる。

一方、子牛管理においては、平均気温が13度以上となる4～10月期の防寒対策は不要と感じますが、7～9月を除いて特異的に13度を下回ることがあり、注意を怠ることはできません。

ただし、牛舎構造等による違いがあるので、舎内の気温との関係を日常的に確認しておく必要があります。

